

今回は、アフリカの最貧地域を支援するNPO法人「ミレニアム・プロミス・ジャパン」の鈴木りえこ理事長にご登壇いただきました。なぜ、アフリカ最貧地域を支援するのか、どのような活動をされているのか、今後の課題などについて伺いました。

——「ミレニアム・プロミス・ジャパン」以下、MPJについて教えてください。

鈴木りえこ理事長 国連の2001年に「ミレニアム開発目標」を取りまわすために達成すべき8つの目標を示したものです。目標の一つに「1日1人が未満で生活する人々の割合を半減させる」というものがあります。その実現に向け進められている計画の一つがアフリカのミレニアム・プロミス・プロジェクトで、それを支援する米国のNPO「Millennium Promise」に連携し、日本として同プロジェクトを支援するために08年4月に設立されたのがMPJです。

——「ミレニアム・プロミス・プロジェクト」は、何ですか？

鈴木 世界で最も貧しい地域であるハラ砂漠以南のアフリカ10カ国の



アフリカの未来、応援したい

鈴木りえこ ミレニアム・プロミス・ジャパン理事長にインタビュー

最貧地域の自立支援と若者の交流めざす



モザンビークのミレニアム・ビレッジで子どもたちと交流する鈴木理事長ら

NDDP、コロンビア大地球研究所、ミレニアム・プロミスーのパートナーシップで運営されています。

——MPJはどんな活動をされるのですか？

鈴木 ミレニアム・ビレッジは、U

り組まれるようになったのはどうですか？

鈴木 05年1月、コロンビア大地球研究所長のジェフリー・サックス教授（米ミレニアム・プロミス共同創設者）の依頼を受け、当時国連次席大使を務めていた夫、北岡伸一（東大教授）が、マラリア防止のための蚊帳の確保にかかわったことが最初のきっかけです。

——今後の目標をお聞かせください。

鈴木 05年1月、コロンビア大地球研究所長のジェフリー・サックス教授（米ミレニアム・プロミス共同創設者）の依頼を受け、当時国連次席大使を務めていた夫、北岡伸一（東大教授）が、マラリア防止のための蚊帳の確保にかかわったことが最初のきっかけです。

——今後の目標をお聞かせください。

鈴木 企業との連携強化や学生の派遣を充実させていきたいと思います。5年間で2億円あれば、一つのミレニアム・ビレッジがある程度まで自立できるといわれます。MPJが全面支援するビレッジができればと思っています。

約80カ所を対象に、5年限定で、農業や健康、教育、電力・輸送・通信、そして安全な飲料水と衛生設備の五つの面から包括的な援助を行い、住民の自立を促す計画のことです。それらの地域をミレニアム・ビレッジと呼んでおり、ビレッジの多くは、国連開発計画（U

お手伝いできることはないかと考え、MPJを設立したのです。

——3月には学生3人とモザンビークのミレニアム・ビレッジを10日間訪れたそうですね。

鈴木 モザンビークのミレニアム・プロミス・ジャパンのホームページはこちら。
<http://millenniumpromise.jp/>

それから、私自身がマラリア防止啓発コンサートやミレニアム・ビレッジ視察でアフリカを何度も訪れるうちアフリカへの思いが強くなり、何か

【略歴】北海道生まれ。日本女子大学文学部英米文学科卒。（株）電通総研に入社後、1年間休職し、1999年にロンドン・スクール・オブエコノミクス大学院で国際関係論の修士号取得。短少子化・危機に立日本社会（集英社新書）をはじめ論文、著書多数。

——3月には学生3人とモザンビークのミレニアム・ビレッジを10日間訪れたそうですね。